NX7700x シリーズ

HDD オプションデバイス (NE3350-551/552)

ファームウェア更新ガイド (ver HPD9)

[GVO-086685-G01(HDD_a)]
(第 2 版)

2024 年 8 月　第 2 版
© NEC Corporation 2024

目次

目次 2
1. 本書について 4
1.1. 本文中の記号について 4
1.2. 注意事項 5
2. 準備 6
2.1. 事前確認 6
3. 接続 8
4. 装置コンソール接続方法 9
4.1. iLO Web インターフェース接続方法 9
4.2. リモートコンソール接続方法 12
4.3. Starter Pack のマウント方法 14
5. HDD モデルと HDD ファームウェアバーション確認方法 16
5.1. iLO Web インターフェースでの確認方法 16
6. ファームウェア更新手順 18
6.1. ファームウェア更新手順フロー 18
6.2. ファームウェア更新手順詳細 19
6.2.1. HDD モデルと更新前ファームウェアバーションの確認 19
6.2.2. ファームウェア更新 20
7. 付録 30
7.1. リモートコンソール及び仮想メディア 30
7.1.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC)の使い方 30
7.1.1.1. コンソールの起動 30
7.1.1.2. 仮想メディアのマウント方法 30
7.1.1.3. 本体装置の電源制御方法 31
7.1.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方 33
7.1.2.1. コンソールの起動 33
7.1.2.2. 仮想メディアのマウント方法 33
7.1.2.3. 本体装置の電源制御方法 34
7.1.3. Java 統合リモートコンソール (Java IRC) の使い方 35
7.1.3.1. コンソールの起動 35
7.1.3.2. 仮想メディアのマウント方法 36
7.1.3.3. 本体装置の電源制御方法 37

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換を行うことは、禁止されております。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一お気付きの点や、ご不明の点がありましたら、販売店または弊社までご連絡ください。
4. 本書記載操作を行った結果の影響については、上記 3 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されております。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ、基本的な事柄につきましては記載を省いておりますのであらかじめご了承ください。

© NEC Corporation 2024
日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。

1. 本書について

本書は、A5010E-2 及び A5010E-2 v2 製品向けの HDD オプションデバイスファームウェアをオフラインで更新するための手引きです。

対象製品 (本体装置)	NX7700x/A5010E-2 [NE3300-231Y/232Y] NX7700x/A5010E-2 v2 [NE3300-233Y/234Y/235Y/236Y/237Y/238Y]
対象 HDD オプションデバイス	[NE3350-551] 増設用 300GB HDD [NE3350-552] 増設用 600GB HDD
更新バーション	ver HPD9
更新作業時間	大凡 1 時間 1 本体装置あたり

1.1. 本文中の記号について

本書では、下記 3 種類の記号を使用しています。
これらの記号と意味をご理解になり製品を正しくお取り扱いください。

	製品の取り扱いや、OS、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や、特に注意すべき点を示します。
	製品や OS、ソフトウェアを操作する上で、確認しておく必要がある点を示します。
	知っておくと役立つ情報や便利な事柄を示します。

1.2. 注意事項

重要	Starter Pack (S8.80-005.09 以上) を使ってファームウェア更新を行ったときのみ、本書に従って、対象 HDD オプションデバイスのファームウェアを更新してください。

ヒント	本書に掲載している画面イメージは一例であり、対象製品、対象製品の構成及び対象製品の操作環境等に依り若干異なる場合がありますが、操作する上で支障のない差異ですので、予めご承知おきください。

重要	本書記載のファームウェア更新手順では、**Starter Pack (S8.80-005.08)** を使用しますので、予め当該 Starter Pack を準備願います。 具体的には、下記 web サイトに掲載されている Starter Pack (S8.80-005.08) をダウンロードした上で、Starter Pack iso ファイル (file: S8.80-005.08.iso) を作成願います。 <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010110920>

2. 準備

本作業では、本体装置以外に下記物品が必要となりますので、予めご準備ください。

Table 2-1 必要となる物品

物品	数量	備考
端末パソコン	1	本体装置に接続し、本体装置を操作するために使用します。 重要 ご使用になる **Starter Pack (S8.80-005.08)** を、予め端末パソコンのローカルディスクに収録しておいてください。
ディスプレイ	1	本体装置に接続し、本体装置の画面として使用します。
LAN ケーブル	1	本体装置と端末パソコンを接続するために使用します。

ヒント

既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(M)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されており、且つ下記物品或いは情報をご存じである場合、前記＜Table 2-1 必要となる物品＞は不要です。

- iLO Web インターフェースにアクセスする端末
- iLO Web インターフェースの User Name と Password
- iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレス

重要 ご使用になる **Starter Pack (S8.80-005.08)** を、予め iLO Web インターフェースアクセス端末のローカルディスクに収録しておいてください。

2.1. 事前確認

［事前確認 01］

本書記載ファームウェア更新手順は、Secure ブートに対応しておりません。
よって、本体装置の Secure ブートが有効になっている場合には、一旦無効に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に有効に戻してください。

Secure ブートの現在の設定値は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Secure Boot Settings → Current Secure Boot State}で確認できます。

Secure ブートの変更は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Secure Boot Settings → Attempt Secure Boot}で行えます。

［事前確認 02］

IO 系デバイスの PCIe Option ROM が"Disabled"に設定されている場合、IO 系デバイスのファームウェア version を確認できない場合があります ("N/A"と表示される)。
その場合には、当該 IO 系デバイスの PCIe Option ROM 設定を一旦"Enabled"に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に"Disabled"に戻してください。

PCIe Option ROM 設定は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → PCIe Device Configuration → <PCIe デバイス (*a)>}で行えます。

(*a) PCIe Option ROM Disabled 設定時、PCIe デバイス表記は下表の通りになります。

モジュール	PCIe デバイス表記　(Oprion ROM Disabled 時)
RAID/SAS Controller	Storage Controller
NIC/LOM	Network Controller
FC Controller	PCIe Controller

［事前確認 03］

本書記載ファームウェア更新手順は、Trusted Platform Module(TPM)に対応しておりません。
そこで、対象本体装置に TPM が搭載されているか否かを確認してください。
そして、TPM が搭載されている場合、「TPM Visibility」設定を一旦［Hidden］に変更して頂き、ファームウェア更新作業終了後に元の設定値に戻してください。

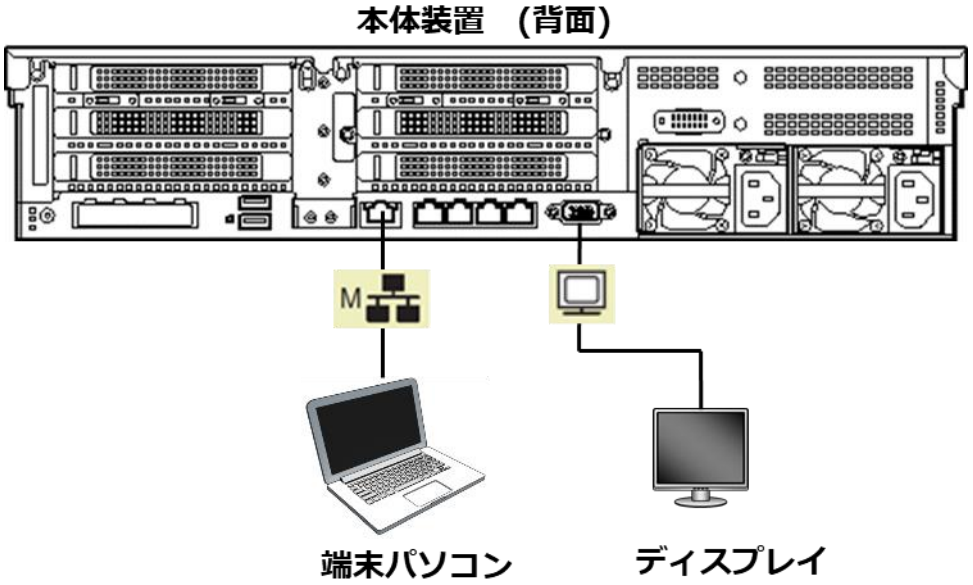
TPM 搭載有無は、{System Utilities：System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → Current TPM State}で確認できます。

TPM Visibility 設定の変更は、{System Utilities：System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security → Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Module Options → TPM Visibility}で行えます。

3. 接続

ご準備頂いた物品を下図のとおり本体装置に接続します。

Figure 3-1 A5010E-2 シリーズ製品 接続図



重要	端末パソコンと本体装置は、LAN ケーブルで直結させてください。

ヒント	既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(M)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されている場合、そのままの接続環境で構いません。

4. 装置コンソール接続方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に接続した端末パソコンから本体装置の iLO Web インターフェース及び本体装置のリモートコンソールに接続して更新作業を行います。
また、本体装置内 iLO のリモートメディア機能を使って、Starter Pack を本体装置にマウントして更新作業を行います。

ここでは、iLO Web インターフェース接続方法、リモートコンソール接続方法、及び Starter Pack のマウント方法を記載します。

4.1. iLO Web インターフェース接続方法

[step.a-01] iLO Web インターフェースへの接続情報の確認

A. iLO Web インターフェースの User Name と Password の確認

本体装置前面のスライドタグにある iLO ライセンスシール中に記載されている「User Name」と「Password」を控えます。

ヒント	既に、iLO Web インターフェースの User Name と Password をご存じである場合、本作業は不要です。

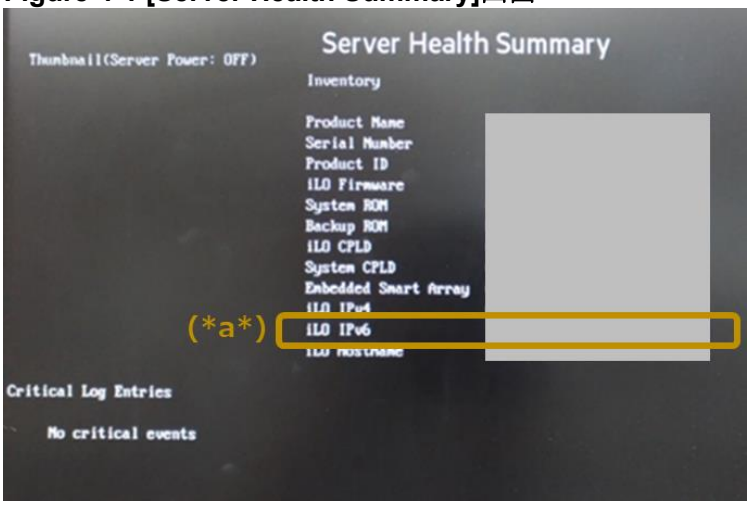
ヒント	以降の作業で、この User Name と Password が必要になります。

B. iLO Web インターフェースの IP アドレス(IPv6)の確認

① 本体装置の電源コードをコンセントに取り付けます。

② Server Health Summary 画面をディスプレイに表示させます。
具体的には、前記①の後、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認した上で、UID スイッチを押します。
そうすると、ディスプレイに下図画面が表示されますので、下図(*a*)箇所の「iLO IPv6」のアドレスを控えます。

Figure 4-1 [Server Health Summary]画面



ヒント	既に、iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスをご存じである場合、本作業は不要です。

ヒント	IPv6 の仕様として、セクションが"0"で始まる場合、"0"を省略して表示しても良いことになっています。 そのため、表示される IPv6 アドレスの各セクションが 4 桁ではない場合があります。 その際は、各セクションが 4 桁となるように、セクションの先頭に"0"を付加して控えてください。 （例） 表示値： fe80::9618:82ff:fe71:2b4 控え値： fe80::9618:82ff:fe71:**0**2b4

ヒント	前記①の後、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯していた場合、本体装置の電源が ON されています。 その場合は、POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF します(スタンバイ状態にします)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。

ヒント	以降の作業で、この IPv6 アドレスが必要になります。

[step.a-02] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

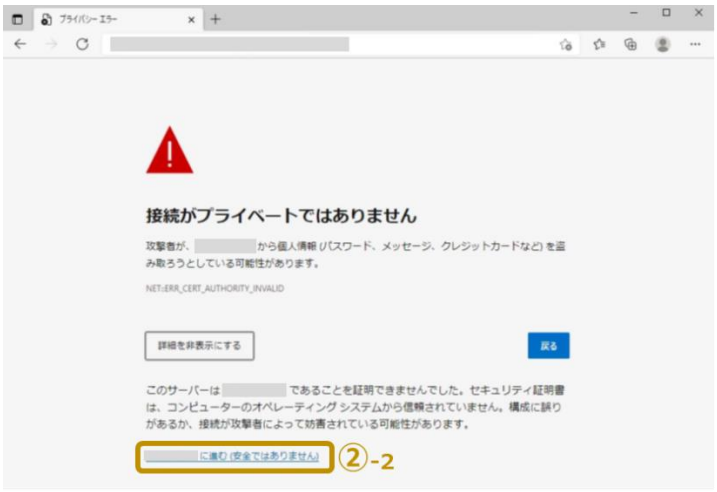
A. iLO Web インターフェースへの接続

① 端末パソコンにて、Web ブラウザ(Microsoft Edge 等) を起動し、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの IP アドレスをアドレスバー（①）に入力します。

例） https://[abcd::efgh:ijkl:mnop:qrst]/



② セキュリティ警告が表示された場合は、上記画面の「詳細情報」（②-1）をクリックします。
そうすると、下図画面表示になりますので、「xxxx に進む (安全ではありません)」（②-2）をクリックしてください。



B. iLO Web インターフェースへのログイン

iLO Web インターフェースに接続できると下図画面が表示されますので、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの User Name と Password を①箇所に入力し、「ログイン」ボタンを押します。



ログインに成功すると、下図画面に切り替わります。



4.2. リモートコンソール接続方法

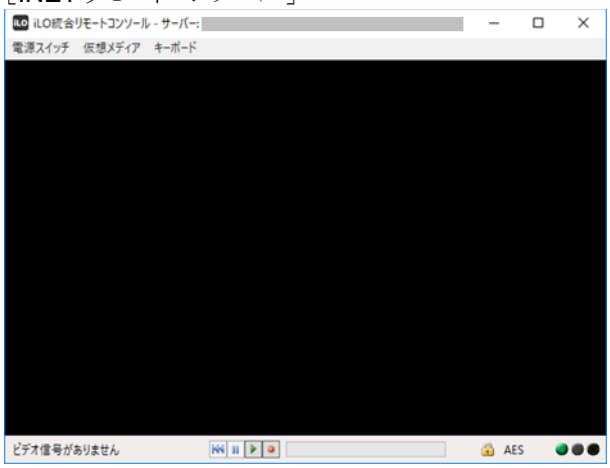
[step.b-01] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]



ヒント	「.NET リモートコンソール」が起動しない場合、下記何れかの対処を行ってください。 [対処 A] 「iLO5 ユーザーズガイド」を参照して、.NET リモートコンソール(.NET IRC)に係る要件、トラブルシューティング等を確認し、端末パソコン及び端末パソコン上で起動している web ブラウザを適切に設定する。 [対処 B] Microsoft Edge にて iLO Web インターフェースに接続している場合、 Microsoft Edge を下記の通り設定し、Microsoft Edge を再起動させた後、再度 iLO Web インターフェースに接続する。

1. ブラウザで以下に移動する。
   edge://settings/content/insecureContent
2. [許可]において、[追加]をクリックする。 [サイトの追加]ダイアログが開きます。
3. [サイトの追加]ダイアログに、iLO Web インターフェースの IP アドレスを入力し、[追加]をクリックする。
   (IPv6 アドレス入力例)　[aaaa::bbbb:cccc:dddd:eeee]

［対処 C］
Microsoft Edge(IE モード)にて、iLO Web インターフェースに接続する。

［対処 D］
「HTML5 統合リモートコンソール」或いは「Java 統合リモートコンソール」を起動させてください。
これらリモートコンソールの起動方法は、＜7.1 リモートコンソール及び仮想メディア＞を参照ください。

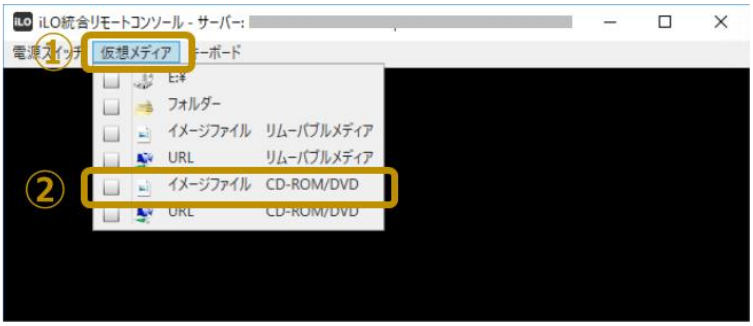
4.3. Starter Pack のマウント方法

[step.c-01] Starter Pack のマウント

本体装置から Starter Pack ファイル(iso ファイル)が見えるようにします。

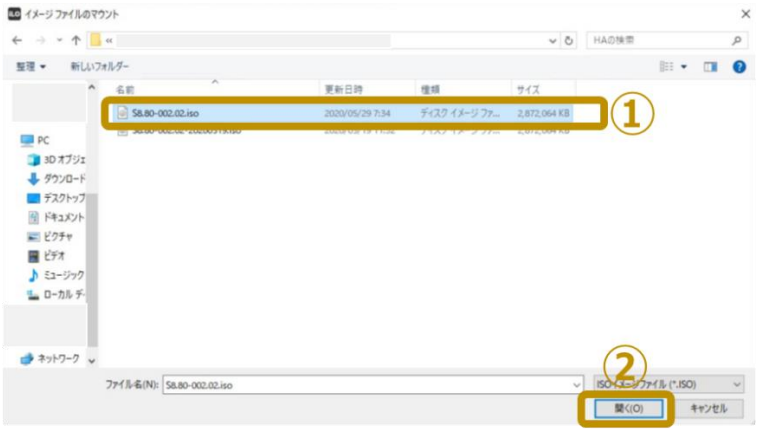
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの［仮想メディア］ → ［イメージファイル CD-ROM/DVD］を選択します。



B. Starter Pack ファイルのマウント

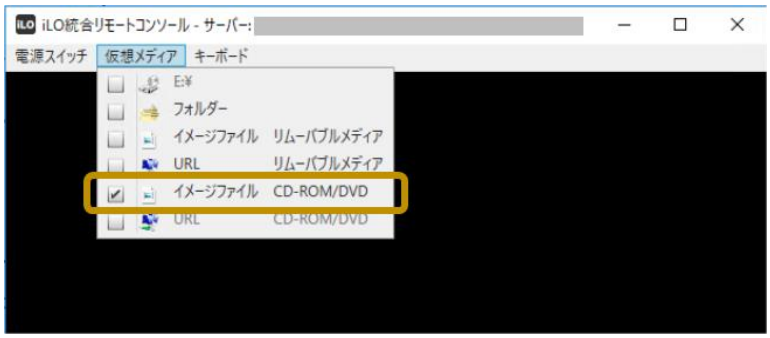
ポップアップ表示された「イメージファイルのマウント」ダイアログにて、予め端末パソコン内に収録しておいた Starter Pack ファイル(iso ファイル)を選択し（①）、「開く(O)」ボタン（②）をクリックします。



ヒント	上記「開く(O)」ボタン（②）をクリックしてからファイルマウントされるまで、約 1 分ほどかかります。

C. Starter Pack ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの［仮想メディア］をクリックし、［イメージファイル CD-ROM/DVD］にチェック（レ点）が付いていることを確認します。


iLO統合リモートコンソール - サーバー:
電源スイッチ
仮想メディア
キーボード
E:¥
フォルダー
イメージファイル リムーバブルメディア
URL リムーバブルメディア
イメージファイル CD-ROM/DVD
URL CD-ROM/DVD

5. HDD モデルと HDD ファームウェアバージョン確認方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に搭載されている HDD オプションデバイスのモデル、及び当該 HDD オプションデバイスのファームウェアを何度か確認します。

そこで、予め本章にて、HDD オプションデバイスのモデル、及び当該 HDD オプションデバイスのファームウェア確認方法を記載します。

5.1. iLO Web インターフェースでの確認方法

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「システム情報」(①)をクリックし、「ストレージ」タブ(②)をクリックします。そして、[ドライブ]項目配下に表示されているドライブ(③)をクリックします。



そうすると、画面右側に下記「ドライブ詳細」が表示されますので、[Model] と [Revision](④)を確認します。



ファームウェア更新が必要な HDD オプションデバイスのモデル（Model）とファームウェアバージョン（Revision）は下表の通りです。

Table 5-1 ファームウェア更新が必要な HDD モデル（Model）とファームウェアバージョン（Revision）

Model (*a)	Revision (*b)	対応 N 型番	備考
EH000300JWCPK	HPD9 以外	[NE3350-551] 増設用 300GB HDD	(*01)
EH000300JXLVR			(*01)
EH000600JWCPL		[NE3350-552] 増設用 600GB HDD	(*01)
EH000600JXLVT			(*01)

(*a) 上図④箇所の［Model］項目に表示される Model 名です。
(*b) 上図④箇所の［Revision］項目に表示される Revision です。

(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。

重要

全ての［ドライブ］項目配下に表示されている 全てのドライブを確認します。

上記＜Table 5-1 ファームウェア更新が必要な HDD モデル（Model）とファームウェアバージョン（Revision）＞に記載する「Model 且つ Revision」の HDD オプションデバイスが 1 つ以上存在する場合、ファームウェア更新が必要です。

ヒント

対象 N 型番(NE3350-551/552)を本体装置搭載していても、上記＜Table 5-1 ファームウェア更新が必要な HDD モデル（Model）とファームウェアバージョン（Revision）＞に記載する Model 以外の場合があります。
それは、同一 N 型番にて複数 Model を製品化しているためです。

尚、上記＜Table 5-1 ファームウェア更新が必要な HDD モデル（Model）とファームウェアバージョン（Revision）＞に記載する Model だけが、ファームウェア更新対象 HDD オプションデバイスです。

6. ファームウェア更新手順

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

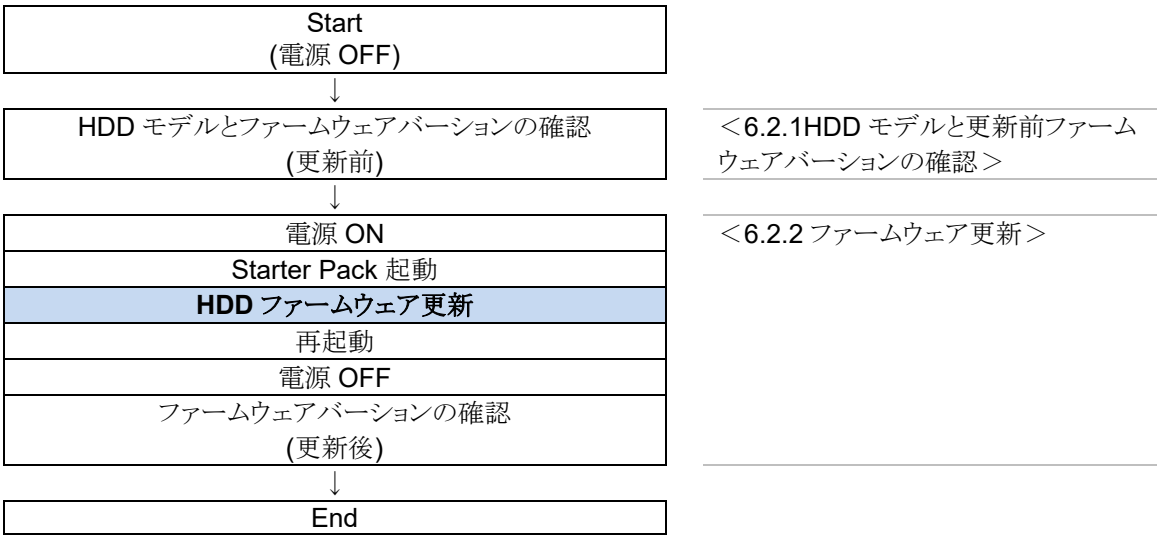
重要	本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。 もし、本体装置の電源が ON されているならば、本体装置の電源を OFF してください。

ヒント	本体装置の電源状態は、装置前面の POWER ランプで確認できます。 電源 OFF 状態ですと、POWER ランプがアンバー色に点灯します。 電源 ON 状態ですと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

ヒント	POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。

6.1. ファームウェア更新手順フロー

Figure 6-1 ファームウェア更新手順フロー



6.2. ファームウェア更新手順詳細

6.2.1. HDD モデルと更新前ファームウェアバージョンの確認

下記手順に従って、本体装置に搭載されている HDD オプションデバイスのモデル、及び、今現在、当該 HDD オプションデバイスにインストールされているファームウェアバージョンを確認します。

[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。
具体的な手順は、前記＜4.1iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

[step.1-02] ファームウェアバージョンの確認

本体装置に搭載されている全ての HDD オプションデバイスに対して、モデル（Model）とファームウェアバージョン（Revision）を確認します。
具体的な手順は、前記＜5HDD モデルと HDD ファームウェアバージョン確認方法＞を参照してください。

[step.1-03] ファームウェア更新要否の判断

- 下表記載の「Model 且つ Revision」である HDD オプションデバイスが 1 つ以上存在する場合、ファームウェア更新が必要です。
  下記＜6.2.2 ファームウェア更新＞の作業に進んでください。

Model (*a)	Revision (*b)	対応 N 型番	備考
EH000300JWCPK	HPD9 以外	[NE3350-551] 増設用 300GB HDD	(*01)
EH000300JXLVR			(*01)
EH000600JWCPL		[NE3350-552] 増設用 600GB HDD	(*01)
EH000600JXLVT			(*01)

(*a) 上図④箇所の[Model]項目に表示される Model 名です。
(*b) 上図④箇所の[Revision]項目に表示される Revision です。

(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。

- それ以外の場合、ファームウェア更新は不要です。
  以上で、ファームウェア更新作業は終了です。

6.2.2. ファームウェア更新

対象 HDD オプションデバイスにインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

重要	本ファームウェア更新手順の下記手順には、操作時間制約（10 秒以内）があります。 よって、予め、どのような操作時間制約なのかをご確認頂いた上で、ファームウェア更新を開始してください。 - [step.2-06] Starter Pack の起動

[step.2-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。
具体的な手順は、前記＜4.1iLO Web インターフェース接続方法＞を参照してください。

[step.2-02] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。
具体的な手順は、前記＜4.2 リモートコンソール接続方法＞を参照してください。

[step.2-03] Starter Pack ファイルのマウント

予め端末パソコンに収録しておいた **Starter Pack (S8.80-005.08)** ファイル(iso ファイル)が本体装置から見えるようにします。
具体的な手順は、前記＜4.3Starter Pack のマウント方法＞を参照してください。

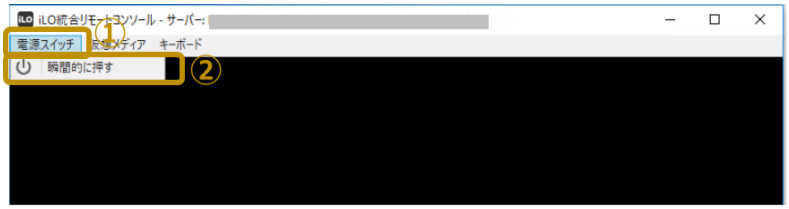
[step.2-04] 本体装置 電源 ON

本体装置の電源を ON します。
具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の POWER ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースの［電力＆温度］→［サーバー電源］→［瞬間的に押す］をクリックする。



- リモートコンソールの［電源スイッチ］→［瞬間的に押す］をクリックする。



ヒント	リモートコンソールでのその他電源操作については、＜7.1.1.3 本体装置の電源制御方法＞に記載しております。

[step.2-05] Boot Menu の起動

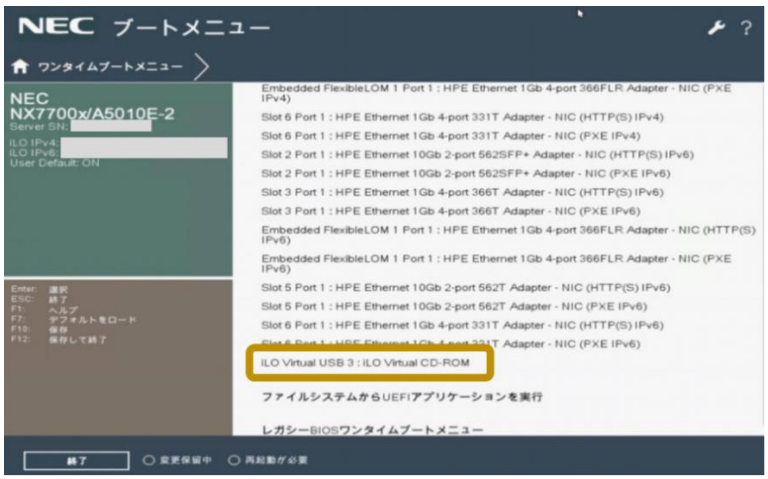
本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F11>キーを押して Boot Menu を起動します。



[step.2-06] Starter Pack の起動

A. 起動デバイスの選択

リモートコンソールに表示されているブートメニューにおいて、「iLO Virtual USB 3：iLO Virtual CD-ROM」を選択します。



B. Interactive モードの選択

下記画面が表示されたならば、**★10 秒以内★**に、カーソルキーを操作して、「Interactive Firmware Update …」を選択し、<Enter キー>を押します。



重要	10 秒以内に選択操作をしなかった場合、「Automatic Firmware Update …」が選択され、自動的にファームウェア更新が行われてしまいます。

C. ソフトウェア使用許諾

しばらくすると、下記画面が表示されますので、「Japanese」(①)を選択した後、「Read (開く)」(②)をクリックします。



ヒント	上記画面が表示されるまで、約 7 分ほどかかります。

ソフトウェア使用許諾画面が表示されますので、内容を確認して「承認」(③)をクリックします。



最後に、下記画面が表示されますので、「次へ」(④)をクリックします。



[step.2-07] ファームウェア更新ソフトウェア(SUM)の起動

下記画面が表示されたならば、「ファームウェアの更新」を選択します。



重要	上記[ファームウェアの更新]を押下したら、画面遷移するまで、何も操作しないでください。 画面遷移しない状態で上記[ファームウェアの更新]を複数回押下すると、Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまう場合があります。これは期待外の挙動です。 もし Smart Update Manager (SUM) ログイン画面が表示されてしまったならば、一旦本体装置を電源 OFF した上で再実行願います。

ヒント	下記画面がポップアップ表示された場合は、「ベースラインまたはインストールセット」(①)が選択されていることを確認し、そのまま「OK」(②)をクリックしてください。 

[step.2-08] ファームウェアインベントリの完了待ち

下記「手順 1 インベントリ」画面に切り替わり、ファームウェアのインベントリが開始されます。
下記①箇所に「インベントリ完了」と表示されるまで、しばらくお待ちください。

①箇所に「インベントリ完了」と表示されましたら、「次へ」(②)をクリックします。



ヒント	インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.2-09] ファームウェアの選択

A. ファームウェアの選択 (その1)

下記「手順 2 レビュー」画面が表示され、インベントリされたファームウェアが一覧表示されますので、更新するファームウェアを選択します。



ヒント	上記「手順 2 レビュー」画面の「利用可能なバーション」欄に表示される情報は、ファームウェアバーションとは限りませんので、当該情報は無視してください。

更新必須なファームウェア(パッケージ)を、下記＜Table 6-1 更新必須対象ファームウェア(パッケージ)＞に記載します。

Table 6-1 更新必須対象ファームウェア(パッケージ)

パッケージ (*a)	参考情報 (対応デバイス)	備考
(firmware-hdd-3d97759111- …)	HDD [NE3350-551/552]	(*01), (*03)
(*a) 「手順 2 レビュー」画面の「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。		

- 「手順 2 レビュー」画面において、更新必須対象ファームウェア(パッケージ)の「コンポーネントを選択」欄を確認します。



「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、

「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。

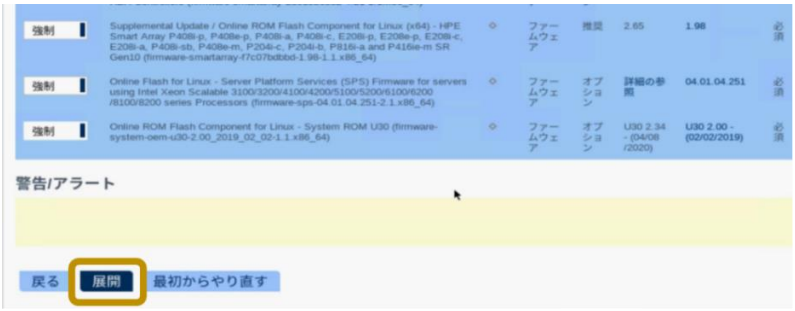


- それ以外の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄が「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」に変更してください。



B. ファームウェアの展開

ファームウェア(パッケージ)の選択が完了しましたら、「手順 2 レビュー」画面の最下部の「展開」をクリックします。



[step.2-10] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

ファームウェアの展開が開始されると、下記「手順 3 展開」画面が表示されますので、全てのファームウェアの展開が完了するまで、しばらくお待ちください。



ヒント	全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 3～5 分ほどかかります。

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、下記「手順 3 展開」画面の①箇所に、「展開が完了しました」と表示されます。

展開が完了しましたら、更新対象ファームウェア(パッケージ)の左端に表示されているステータスアイコン(②箇所)が全て緑色であることを確認してください。



C. 本体装置の再起動

下記「手順 3 展開」画面最下部の「再起動」(①)をクリックします。
そうすると、「再起動」のポップアップ画面が表示されますので、「はい、再起動します」をクリックします。

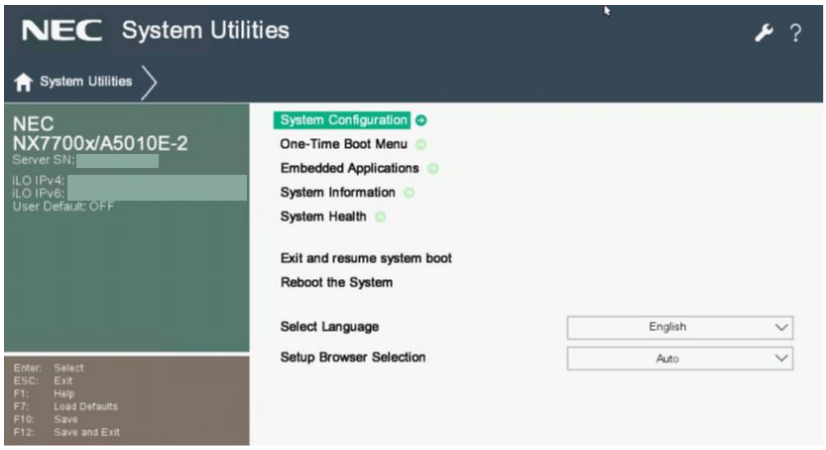


[step.3-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下記画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



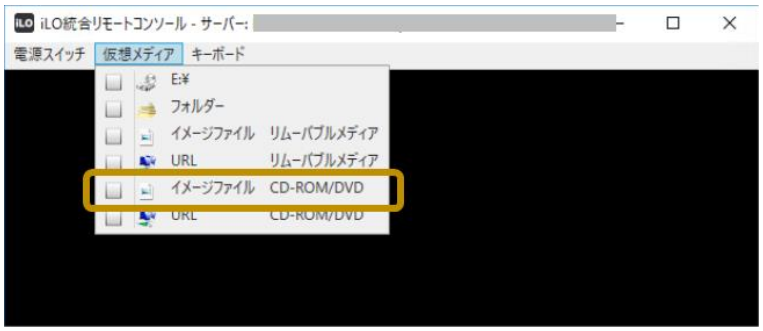
System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下記画面表示に切り替わります。



[step.3-02] Starter Pack ファイルのマウント解除

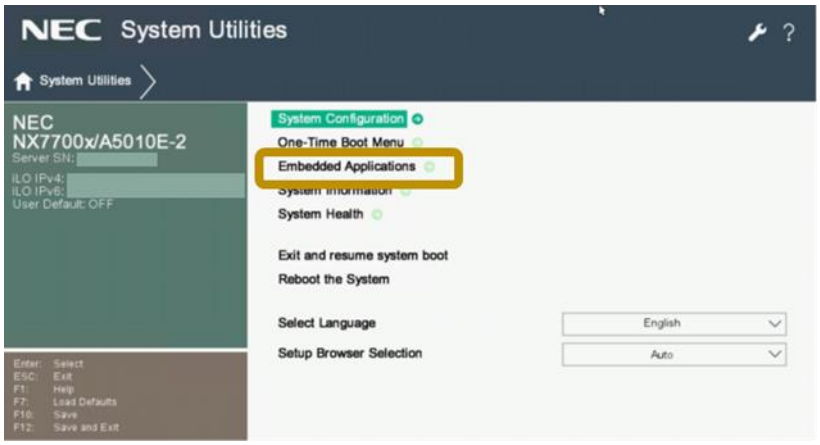
リモートコンソールにおいて、Starter Pack ファイルのマウントを解除します。
具体的には、リモートコンソールの［仮想メディア］をクリックし、［イメージファイル CD-ROM/DVD］にチェック（レ点）が付いていないか否かを確認します。

もしチェック（レ点）が付いていれば、チェック（レ点）を外します。



[step.3-03] UEFI Shell の起動

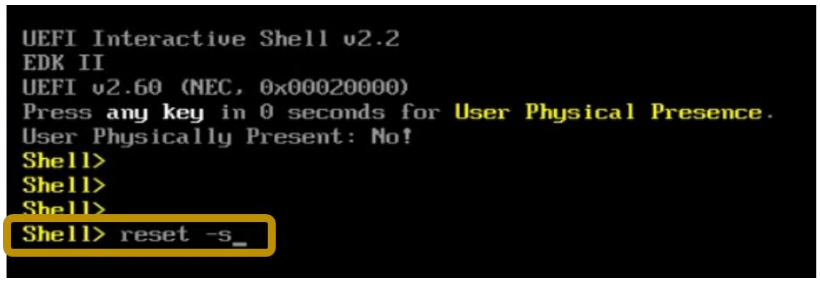
リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、「Embedded Applications」→「Embedded UEFI Shell」を選択します。



[step.3-04] 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールにて UEFI Shell が起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```



[step.3-05] 更新後ファームウェアバージョンの確認

本体装置に搭載されている全ての HDD オプションデバイスに対して、モデル(Model)とファームウェアバージョン(Revision)を確認します。
具体的な手順は、前記＜5HDD モデルと HDD ファームウェアバージョン確認方法＞を参照してください。

- 下表記載モデル(Model)である全ての HDD オプションデバイスのファームウェアが、下表「Revision」欄記載バージョンであるならば、
  以上で、ファームウェア更新作業は終了です。

Model (*a)	Revision (*b)	対応 N 型番	備考
EH000300JWCPK	HPD9	[NE3350-551] 増設用 300GB HDD	(*01)
EH000300JXLVR			(*01)
EH000600JWCPL		[NE3350-552] 増設用 600GB HDD	(*01)
EH000600JXLVT			(*01)

(*a) 上図④箇所の[Model]項目に表示される Model 名です。
(*b) 上図④箇所の[Revision]項目に表示される Revision です。

(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。

- ファームウェアバージョンが上表「Revision」欄記載以外であるモデル(Model)の HDD オプションデバイスが在る場合、Starter Pack の選択を誤った可能性があります。
  再度、前記＜[step.2-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン＞から作業してください。

以上で、一連のファームウェア更新作業は終了です。

7. 付録

7.1. リモートコンソール及び仮想メディア

7.1.1. .NET リモートコンソール (.NET IRC)の使い方

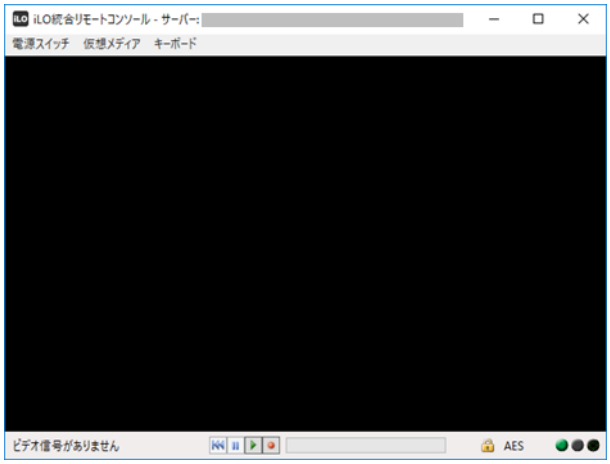
7.1.1.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「.NET コンソール」ボタン(③)をクリックします。



.NET リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

[.NET リモートコンソール]

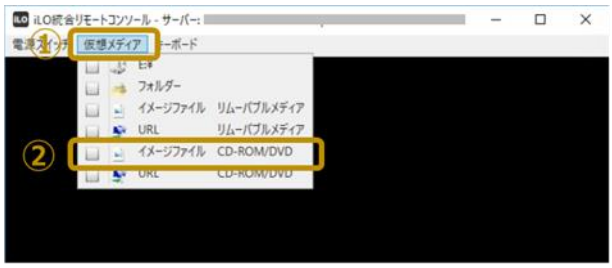


7.1.1.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

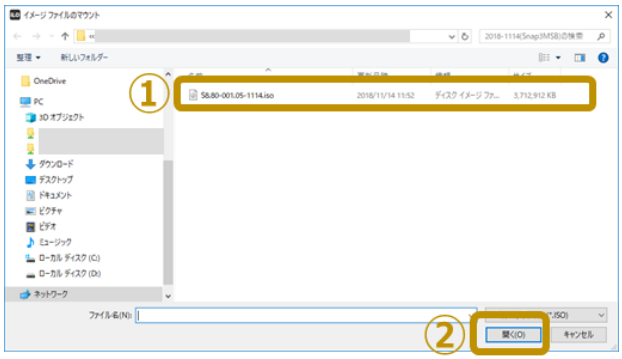
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD]を選択します。



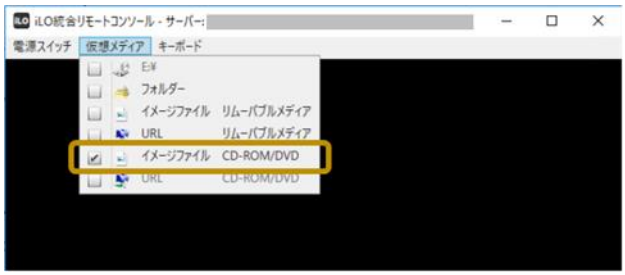
B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「イメージファイルのマウント」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの[仮想メディア]をクリックし、[イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。

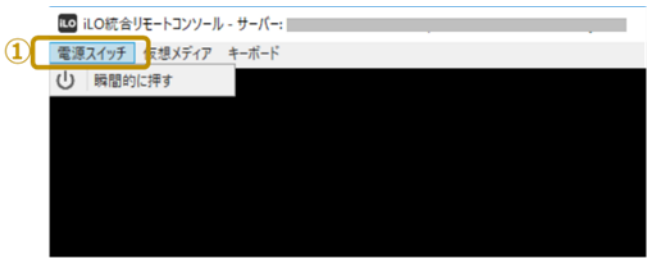


ヒント	マウント解除する場合は、リモートコンソールの[仮想メディア] → [イメージファイル CD-ROM/DVD]にチェック(レ点)が付いている状態で、[イメージファイル CD-ROM/DVD]をクリックします。

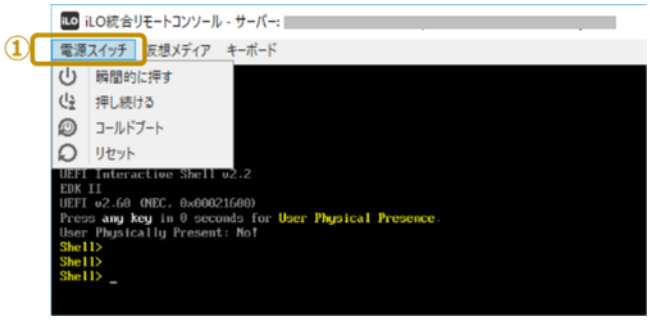
7.1.1.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの[電源スイッチ]をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。
表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



［本体装置電源 ON 状態のとき］



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとします。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

7.1.2. HTML5 統合リモートコンソールの使い方

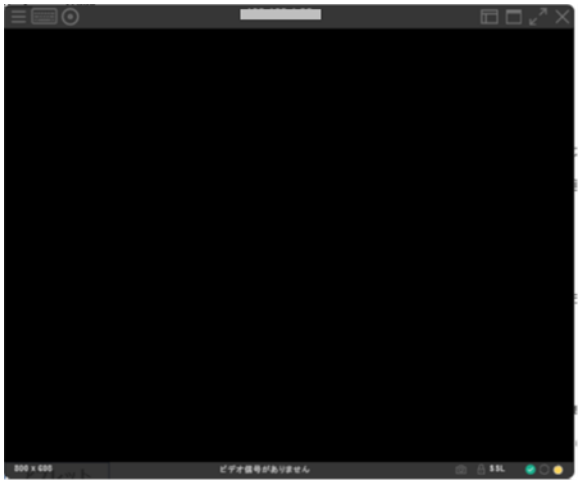
7.1.2.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「HTML5 コンソール」ボタン(③)をクリックします。



HTML5 リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

［HTML5 リモートコンソール］

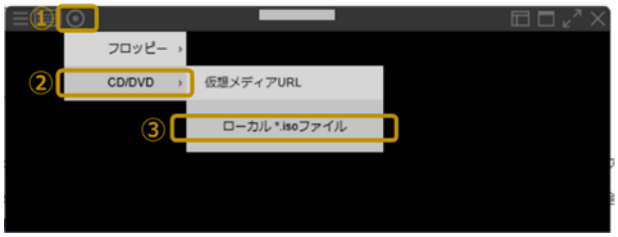


7.1.2.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

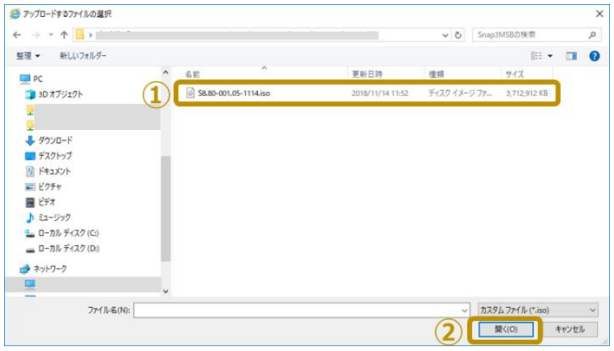
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの  をクリックし、［CD/DVD］→［ローカル *.iso ファイル］を選択します。



B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「アップロードするファイルの選択」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し(①)、「開く(O)」ボタン(②)をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの  をクリックし、[CD/DVD]にチェック(レ点)が付いていることを確認します。



ヒント	マウント解除する場合は、リモートコンソールの をクリックし、[CD/DVD] → [メディアの強制取り出し]を選択します。

7.1.2.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの  をクリックし[電源]を選択すると電源操作メニューが表示されます。
表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとします。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

7.1.3. Java 統合リモートコンソール (Java IRC) の使い方

7.1.3.1. コンソールの起動

① iLO Web インターフェースのメニューフレームにて「リモートコンソール & メディア」(①)をクリックし、「起動」タブ(②)をクリックします。そして、「Web Start」ボタン(③)をクリックします。

④「…を開くか、または保存しますか？」とポップアップ表示されたならば、「ファイルを開く(O)」をクリックします。

⑤「このアプリケーションを実行しますか。」とポップアップ表示されたならば、「実行(R)」をクリックします。

尚、この画面がポップアップ表示されるまで約1分ほどかかります。

⑥ セキュリティ警告画面がポップアップされたならば、「続行」をクリックします。







Java 統合リモートコンソールが起動できると、下図コンソールがポップアップ表示されます。

［Java 統合リモートコンソール］

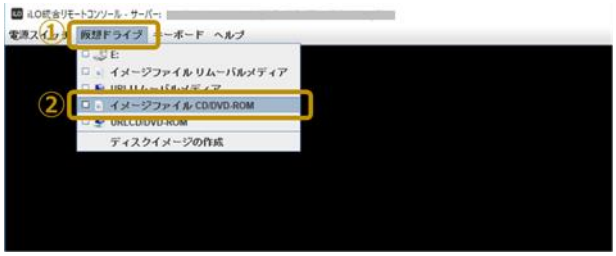


7.1.3.2. 仮想メディアのマウント方法

端末パソコン内収録 iso ファイルが本体装置から見えるようにする方法を記載します。

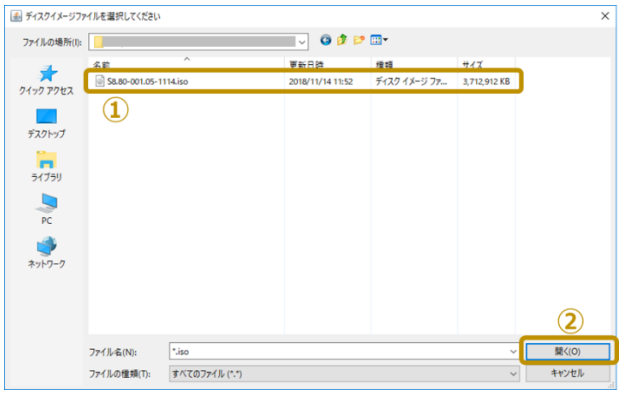
A. 仮想メディアの選択

リモートコンソールの［仮想ドライブ］ → ［イメージファイル CD/DVD-ROM］を選択します。



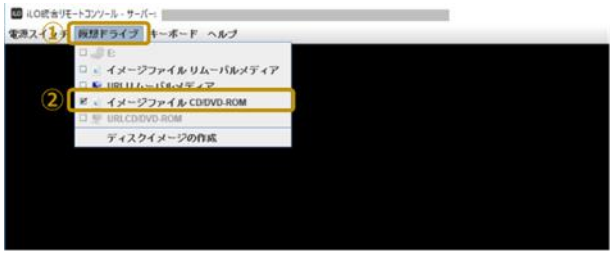
B. iso ファイルのマウント

ポップアップ表示された「ディスクイメージファイルを選択してください」ダイアログにて、端末パソコン内に収納している iso ファイルを選択し（①）、「開く(O)」ボタン（②）をクリックします。



C. iso ファイルのマウントの確認

リモートコンソールの［仮想ドライブ］をクリックし、［イメージファイル CD/DVD-ROM］にチェック（レ点）が付いていることを確認します。



ヒント	マウント解除する場合は、リモートコンソールの［仮想ドライブ］→［イメージファイル CD/DVD-ROM］にチェック（レ点）が付いている状態で、［イメージファイル CD/DVD-ROM］をクリックします。

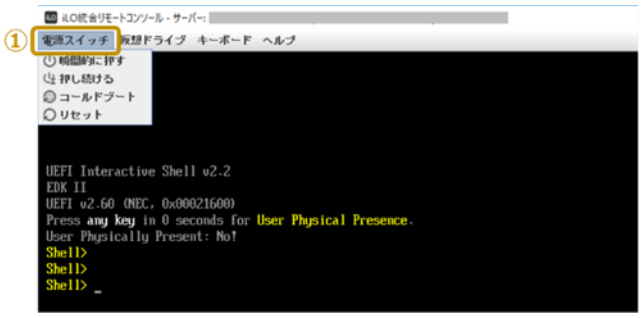
7.1.3.3. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソールの［電源スイッチ］をクリックすると、電源操作メニューが表示されます。
表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

［本体装置電源 OFF 状態のとき］



［本体装置電源 ON 状態のとき］



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

本体装置電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	瞬間的に押す	本体装置の電源を ON します。
ON	瞬間的に押す	本体装置の電源を OFF しようとします。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	押し続ける	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	コールドブート	本体装置を再起動します。
	リセット	本体装置を再起動します。

NEC NX7700x シリーズ

HDD オプションデバイス
(NE3350-551/552)

ファームウェア更新ガイド
(ver HPD9)

2024 年 8 月 第 2 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2024

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。